



©2005 石塚真一/小学館

第 106 号(平成 30 年3月 29 日)

信州の山岳遭難現場と全国の登山者をつなぐ  
特別隊員

# 島崎 三步 の「山岳通信」

この通信は次の方々に長野県の山岳地域で発生した遭難事例を原則的に 1 週間ごとにお伝えし、「安全登山」のための情報提供をしています。

- ◇お客様と接する登山用品店舗スタッフの方
- ◇インターネットの登山情報サイトを利用される登山者
- ◇長野県内の各地区山岳遭難防止対策協会

★春の山火事予防特別強化中です。詳細は巻末をご覧ください。

平成 30 年中の山岳遭難発生状況(平成 30 年1月1日～3月 11 日)

BC(バックカントリー)は、登山行為を伴う「スキー(スノーボード)登山」と登山行為を伴わない「ゲレンデ外滑走」の総称。

区分	発生件数	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計	内)外国人
平成 30 年	27	2	2	13	14	31	6
平成 29 年	35	8	1	17	18	44	13
前年同期比	-8	-6	1	-4	-4	-13	-7
内)BC	-7	0	+2	-3	-11	-12	-7

山域別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
北アルプス	槍穂高	0.0%					0
	後立山	25.9%	1	2	3	3	9
	その他	3.7%				2	2
	計	29.6%	1	2	3	5	11
中央アルプス	3	11.1%	1			2	3
南アルプス		0.0%					0
八ヶ岳連峰	8	29.6%			4	5	9
その他の山岳	8	29.6%			6	2	8
計	27		2	2	13	14	31

態様別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
転・滑落	6	22.2%	1		5		6
転倒	5	18.5%			5		5
病気	2	7.4%				2	2
道迷い	5	18.5%				8	8
落石		0.0%					0
雪崩	1	3.7%	1				1
落雷		0.0%					0
疲労凍死傷	2	7.4%				3	3
不明・他	6	22.2%		2	3	1	6
計	27		2	2	13	14	31

男女別・年齢別比率

区分	男性					(人) 比率	女性					(人) 比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
19歳以下					0	4人 20.0%				3	3	6人 54.5%	3	10人 32.3%
20代					0					2	2		2	
30代			4		4					1	1		5	
40代	1	1	3	2	7	11人 55.0%			2		2	4人 36.4%	9	15人 48.4%
50代		1	1	2	4				1	1	2		6	
60代			3	2	5	5人 25.0%				1	1	1人 9.1%	6	6人 19.4%
70以上					0						0		0	
計	1	2	11	6	20		0	0	3	8	11		31	
比率	64.5%						35.5%							

日付	場所	年齢	性別	態様	死傷別	概要
2月27日	野沢温泉 地籍毛無山	51	男	その他	無事救出	スノーボードにより <b>バックカントリー中</b> 、滝にはまり行動不能
						
3月4日	北アルプス 白馬乗鞍岳	58	男	不明	行方不明	白馬乗鞍岳方面へ <b>バックカントリースキー</b> に向かったまま何らかの原因により行方不明
<p>4日、北安曇郡小谷村の北アルプス白馬乗鞍岳で、男性58歳がスキー場に出かけたまま、帰宅せず行方不明となる事案が発生しました。男性の特徴は、身長168センチ、中肉、色不明のスキーウェア、黒色ズボン、黒字に赤色系グラデーション模様のショートスキーです。</p>						
<b>3月3日</b>	<b>中央アルプス 宝剣岳</b>	<b>45</b>	<b>男</b>	<b>滑落</b>	<b>死亡</b>	<b>宝剣岳山頂付近を登山中、何らかの原因により滑落</b>
<p>3日、中央アルプス宝剣岳で、男性45歳が滑落して心肺停止となる山岳遭難が発生し、県警ヘリと県警山岳遭難救助隊が救助に向かいました。天候の回復を待って救助を再開して7日、木曽署に収容され、死亡が確認されました。</p>						
3月9日	中央アルプス 宝剣岳	48	男	道迷い	無事救出	宝剣岳山頂から下山中、道に迷い行動不能
<p>9日、48歳男性が宝剣岳から下山中、天候不良(ガス)のため道に迷い、救助要請。翌10日、県警山岳遭難救助隊及び県警ヘリで捜索。県警ヘリで遭難者を無事発見し救助しました。</p>						
<p>遭難現場の状況</p> 						

3月10日	浅間連峰 黒斑山	51	男	転倒	負傷	山頂から下山中、バランスを崩し転倒し、負傷
10日、51歳男性が黒斑山から下山中、バランスを崩して転倒し、足を負傷し救助要請。県警へリで救助し、病院へ搬送しました。						
3月11日	中央アルプス 中岳	26	女	疲労	無事救出	登山中、疲労により行動不能
11日、26歳女性が下山中、体調不良のため、歩行困難となり救助要請。県警山岳遭難救助隊及び遭対協が出動しましたが、遭難者は、他のパーティーの支援を受けて、自力でロープウェイ千畳敷まで下山しました。						
3月11日	八ヶ岳連峰 横岳	32	男	滑落	負傷	稜線付近を登山中、バランスを崩し約100m滑落し、負傷
11日、32歳女性が、稜線上を登山中、足を滑らせ滑落し、負傷。同日、県警へリにより、救助し病院へ搬送しました。						

### 山岳安全対策課からのワンポイントアドバイス

3月1週は、バックカントリー中の遭難が2件発生しました。冬山登山やバックカントリーは確かに夏山にはない魅力がありますが、ささいなミスが遭難に直結し、最悪の場合は死亡遭難や行方不明遭難となっています。警察本部や警察署には「登山に行った家族と連絡がとれない」「友達が山に行ったまま帰ってこない」等の問い合わせが寄せられます。入山に際しては、計画書を家族や友人に託す、保険に入る、通信手段を確保するなど、万が一の備えを万全にして山に登りましょう。

3月2週は、週末を中心に5件の遭難が発生しました。うち中央アルプスでは3件の遭難が発生しています。3月は春の陽気の到来に伴い、山中でも寒暖差が大きくなることから、稜線付近は岩と氷雪が混在したコンディションとなります。そのような山域での登山には、アイゼンやピッケルを駆使した確実な雪上技術が求められます。危険個所の通過には積極的にロープを使用するなど、安全を第一に慎重な行動を心がけましょう。

内容は長野県警察本部の発表時点のものです。

◆春の山火事予防特別強化中！（平成 30 年3月 12 日(月)～4月 11 日(水)）

春先は、特に空気が乾燥し、強い風が吹くことから、山火事が起こりやすい時期です。

長野県では、昨年度の県消防防災ヘリコプターの事故を受け、上空からの消火が必要な火災等に対応するため、ヘリコプターの運航再開に向けた訓練に取り組んでいるところですが、「山火事を発生させない！」ため、登山者の皆様も例年以上に火の取り扱いにご注意いただくようお願いします。

山菜取りや登山、ハイキングなどの野山に出かける際には、タバコやたき火などの火は確実に始末し、火の取り扱いにはくれぐれも気を付けてください。

【次のことに十分気を付けてください】 ※火の取り扱い不注意から山火事多発中！

- ① 枯れ草など燃えやすいものがあるところでは、たき火をしないこと
- ② たき火など火を使用しているときは、その場を離れず、使用後は完全に消化すること
- ③ 風が強い日や乾燥している日は、たき火はしないこと
- ④ たばこは指定された場所で喫煙し、吸いがらは必ず消すとともに、投げ捨てないこと



万が一、火災が発生しているのを見つけた場合は、ただちに 119 番に通報してください。  
また、火や煙に巻かれないように身の安全を確保してください。

\* 本通信に関する質問・意見は「長野県観光部山岳高原観光課」[jmt-tourism@pref.nagano.lg.jp](mailto:jmt-tourism@pref.nagano.lg.jp) までお寄せください。

＝発行：長野県山岳遭難防止対策協会＝